

●河合源七郎家住宅（かわいげんしちろうけじゅうたく）

主屋、離れ座敷及び茶室、内蔵、外蔵、中門及び塀、貴賓口、境界塀
所在地 橿原市北八木町2丁目（かしはらしきたやぎちょう）

河合源七郎家のある八木地区は、古代からの幹線道路である「横大路」と「下ッ道」が交わる地域で、河合源七郎家のすぐ南にある「札の辻」がその交差点に当たり、古代から近世・近代まで、伊勢神宮への「おかげ参り」をはじめとする交通・商業の要衝として賑わった界隈である。

河合源七郎家は、本年6月に登録文化財の答申のあった河合家住宅（河合鋭治家、平成21年8月7日登録）の南隣に、南北路「下ッ道」に西面して敷地を構え、北隣河合家住宅の前面から「札の辻」間は道巾が広く、かつての「八木市」の跡であった。

河合源七郎家の敷地は、南北間口約20m、東西約48mで、西面の中央に主屋を構え、主屋北に貴賓口を開き、敷地北西角に内蔵を建てる。主屋の南の角地には、建ちの高い境界塀を延ばし、敷地南面東奥に外蔵を配す。主屋の東後方には、数寄屋風意匠の離れ座敷及び茶室、中門及び塀を配置する。

今回、登録の答申を受けた主屋等は、現所有者の三代目河合源七郎の祖父、初代源七郎の代に建てられたもので、明治20年代後半に主屋、貴賓口、内蔵、外蔵が、大正時代に主屋東に離れ座敷や茶室等が建てられている。なお、この初代河合源七郎は明治33年9月から37年8月まで八木町長を務めており、日露戦争前後の国内全般多忙な時期に町長という要職にあったことから考え、町長就任時にはすでに、主屋、内蔵等は完成していたとみられる。

「八木市」跡の広い通りに面した広大な敷地に建つ主屋は、下屋に出格子を設け、上屋は大壁で虫籠窓を穿った、重厚な表構えの大型町家で、北隣に建つ一族の河合家住宅（河合鋭治家）主屋と並んで「下ッ道」に面して建つ姿は優美で、八木の町の歴史的景観に大きく寄与する建造物である。

○河合源七郎家住宅 主屋（おもや）

建築年代 明治中期

構造・形式・規模 木造平屋建、桁行7.9m、梁間12.8m、切妻造、正背面両面庇付、
棧瓦葺、北面東に「げんかん」、「ぶつま」、「ざしき」等、南面に水まわり諸室、東面南に「ふろば」、「せんたくば」附属
建築面積292㎡

主屋は、主要部が桁行7.9m、梁間12.8m、つし二階建、切妻造、棧瓦葺で、北面東寄りに玄関、仏間を、その北に西から「ざしき」等3室を付設する。主屋南面には板間2室、南東隅には風呂場、洗濯場の水まわり棟を付設。

正面は1、2階とも出桁造で軒を深め、1階に出格子や格子戸を立て、2階は大壁で虫籠窓を穿つ。主屋主要部の内部は、北側に正面から「みせのま」、「なかのま」、「だいどころ」の1列3室型居室、南に右に「しもみせ」を見て、奥に吹き抜けの通り土間が続く。この南に東西に板間2室を付設し、北面には正面側に貴賓口から入る坪庭を設け、「げんかん」、「ぶつま」の2室、その北に雁行して「しものま」、「つぎのま」、「ざしき」の3室を設ける。

1、2階軒を出桁造とし、2階を揚塗の漆喰塗込として虫籠窓を穿つ正面外観は重厚な構えを形成し、内部も北側の東への突出部分の「ざしき」、「つぎのま」を上段の間とする等、明治期らしい気品のある構成を備えた建物である。

○河合源七郎家住宅 離れ座敷及び茶室（はなれざしきおよびちゃしつ）

建築年代 大正前期

構造・形式・規模 離れ座敷 木造平屋建、桁行4.9m、梁間6.4m、入母屋造、棧瓦葺
茶室 木造平屋建、桁行2.7m、梁間3.9m、入母屋造、棧瓦葺、一部銅板葺
建築面積42㎡

主屋後方に突出した座敷と廊下を介して接続する。離れ座敷は桁行4.9m、梁間6.4mで、入母屋造、西側庇一部銅板葺。北側に三畳の茶室と洗面・便所、南側に付属屋の浴室が付く。主屋座敷からの渡廊下、茶室濡縁には卍崩しの低い高欄を備える。

茶室は入母屋造、棧瓦葺、一部銅板葺の外観で、三畳茶室の東には大きな「円窓」、北には「壁床」が付く。

茶室の東、敷地の北東角を建屋と一体となった塀で囲んで、「つくばい」を据えた坪庭を設け、茶室、離れ座敷双方からの印象的な坪庭空間を形成している。

離れ座敷、茶室とも、皮付き丸太を用いて数寄屋風意匠にまとめられ、中庭まわりの閑静な佇まいを醸し出している。

○河合源七郎家住宅 内蔵（うちぐら）

建築年代 明治中期

構造・形式・規模 土蔵造 2階建、桁行5.6m、梁間3.9m、切妻造、本瓦葺
建築面積22㎡

敷地北西隅に建つ乾蔵で、主屋から張り出して建つ。桁行5.6m、梁間3.9m、土蔵造 2階建で、屋根は切妻造、本瓦葺である。外壁は漆喰塗で、南北面の腰は海鼠壁とし、正面は基部を花崗岩張り、腰を豎板張りとする。

主屋とともに古代からの主要道である「下ッ道」の歴史的な街路景観を形成している。

○河合源七郎家住宅 外蔵（そとぐら）

建築年代 明治中期

構造・形式・規模 土蔵造 2階建、桁行5.6m、梁間3.9m、切妻造、本瓦葺
建築面積43㎡

敷地の南東、旧環濠に接して建つ異蔵で、道具蔵として用いられている。主屋南寄りの後方に、通り庭を介して建つ。桁行7.6m、梁間5.6m、土蔵造 2階建で、屋根は切妻造、本瓦葺である。外壁は漆喰塗で、東西面の腰は海鼠壁とする。

主屋南面の外壁と連続した壁面を構成し、敷地南辺の歴史的な露地空間を形成している。

○河合源七郎家住宅 中門及び塀（ちゅうもんおよびへい）

建築年代 大正前期

構造・形式・規模 木造、折曲り延長5.7m、棧瓦葺、一部銅板葺

主屋後方の「ふろば」と離れ座敷の間に延びる塀で、通り庭と中庭を区画する。折曲り延長5.7m、高さ2.7m、棧瓦葺で、東寄りに中門を開く。中門は両開き板戸を備え、銅板葺の付け庇が付く。

塀の壁面は、南の通り庭側を白漆喰壁で腰豎板張、北の中庭側は鼠漆喰の櫛引き仕上げで、腰竹張としており、庭空間にあわせ意匠を違えている。

○河合源七郎家住宅 貴賓口（きひんぐち）

建築年代 明治中期

構造・形式・規模 木造、両下造、棧瓦葺、一部銅板葺、延長2.7m

貴賓口は、敷地西辺の主屋と内蔵の間にある来客用の門で、間口2.7m、高さ3.2m、屋根両下造、一文字瓦葺である。正面外観は漆喰壁で、腰を縦板張りとして、門口は、外側を潜戸付の格子戸、内側を板戸両開きとして、銅板葺の深い庇を付ける。主屋の北脇にあって格調ある屋敷景観を形成している。

○河合源七郎家住宅 境界塀（きょうかいべい）

建築年代 大正前期

構造・形式・規模 木造、棧瓦葺、折曲り延長8.2m

主屋西面の南側に延びる塀で、敷地南西隅の裏鬼門にあたるこの場所を坪庭とし、これを囲う。折曲り延長8.2m、高さ3.5m、棧瓦葺で、上部を漆喰壁、腰は縦板を高く張る。建ちの高い塀で、主屋とともに古道に面する屋敷地の格式ある景観の形成に寄与している。